

4 インターンシップの強化

(1) 本学のインターンシップ強化等の取組 (H27年度～R元年度)

国公立大学は、学生の就職活動の面でこれまで比較的恵まれてきたことから、私立大学と比べて大学による学生のキャリア形成・就職活動の支援が手薄い状況にある。

こうしたことを踏まえ、本学では、COC+就職・インターンシップ担当ワーキングにおいて検討を進め、学生に改めて地元企業への興味・関心を持ってもらうことにより、地元企業への就職に結びつくことを期待して、学生のキャリア形成の支援の充実を図りながら、地元企業へのインターンシップの参加者の増加を図るための取り組みを進めてきた。

■インターンシップ強化の取組経緯

H28年度:COC+就職・インターンシップ担当ワーキング設置

中国経済連合会の人材育成部会の検討に参加

H29年度:学生からの自主参加のインターンシップ報告制度を開始

地元企業経営者パネル討論会を開始

中国経済連合会との協働により新たな企業訪問事業開始

H30年度:キャリア教育支援科目の見直しを検討

R元年度:新たなキャリア教育支援科目の開始

■インターンシップの実績

受け入れ企業・団体数は、協働地域内の企業等に呼びかけを行い、協力をいただいた結果、平成27年度の水準に比べて、概ね3倍に増加した。

参加した学生数は、平成30年度までは当初設定した目標に達していなかったが、令和元年度には目標を上回るとともに、平成27年度に比べて、約1.7倍に増加している。

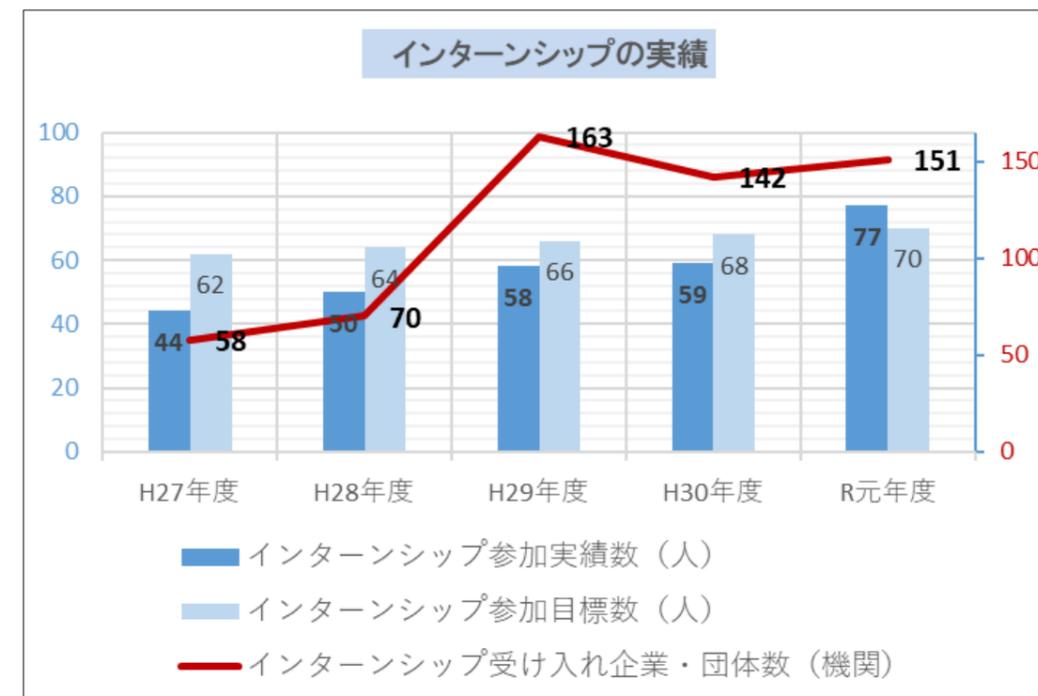
インターンシップの実施状況 ()がCOC+協働機関における実績で内数

受入れ	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度
インターンシップ受け入れ企業・団体数	84社・団体 (58)	103社・団体 (70)	304社・団体 (163)	294社・団体 (142)	286社・団体 (151)

学生の参加	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度
企業等インターンシップ	42名 (39)	63名 (47)	77名 (55)	60名 (58)	87名 (77)
広島市有給長期インターンシップ	5名 (5)	3名 (3)	3名 (3)	1名 (1)	0名 (0)
広島県インターンシップ促進協議会	2名 (0)	1名 (0)	0名 (0)	0名 (0)	1名 (0)
その他のインターンシップ	6名 (0)	4名 (0)	4名 (0)	2名 (0)	2名 (0)
合計	55名 (44)	71名 (50)	84名 (58)	63名 (59)	90名 (77)

(注)H27年度、H28年度については、学生が本学キャリアセンターの仲介を得ることなく、リクルート(リクナビ)等により企業に直接申し込んで実施するインターンシップの参加者数を含んでいない。

H29年度からは、学生からの報告制度を新たに設け、報告のあったものを集計・掲載している。



① キャリア教育の見直し

本学では、教育課程全体にキャリア教育の視点を取り入れるとともに、正課外の学修活動を含めて、学生一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育を推進している。

これをさらに改善するため、平成30年度は、既存のキャリア形成支援科目や正課外学修活動の内容と履修年次を見直すとともに、専門教育科目におけるキャリア形成の視点を整理するなどして、学生が教職員の支援を受けながら、自らのキャリア形成に取り組むことができる体制を構築し、令和元年度から実施した。

■キャリア形成支援科目(全学共通系)の見直し (H30年度)

「キャリアデザイン」(1・2年後期)を「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」(1・2年前期・後期)として学習の内容を充実し、「キャリアサポートベーシック」を「キャリアサポートベーシックA・B」として2年生にも対象を広げ、自由科目から選択科目に変更した。

低学年時からの、将来の職業選択についての構想や学修、インターンシップ、就職活動への実践的な指導に力点を置いた見直しとなっている。

■キャリアデザインシートの導入

全学生に1年次からキャリア形成について意識する機会を設定する。新たな取り組みとして、大学生活の目標設定、振り返り等を定期的に行うキャリアデザインシートを導入した。学生ハンドブックに記載し、各自が記入できるようにした。

■低学年からのインターンシップ指導

これまで3年次を中心に行っていたインターンシップについて、キャリア形成支援科目の見直しによって、低学年での参加を推奨、指導する体制に見直すとともに、専門教育科目での各学部のインターンシップ科目の履修促進など、充実強化を図っている。

キャリア形成支援科目(全学共通系)の見直し内容 (H30年度に検討)

	見直し前	見直し後
科目名	キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ・Ⅱ
年次・学期	1・2年 後期	1・2年 Ⅰ前期・Ⅱ後期
内容	ライフプランとして友情、恋愛、結婚、仕事・職業について一緒に考える。	職業人生やキャリアについて、ⅠⅡにより段階的に構想し、実現をサポート。 Ⅰ 卒業後の将来に向け4年間の学習の目標を設定する。 Ⅱ 将来の働き方を設計する。

	見直し前	見直し後
科目名	キャリアサポートベーシック	キャリアサポートベーシックA・B
年次・学期	3年 通期(自由科目)	2年、または3年 A前期・B後期(選択科目)
内容	卒業後の進路を適切に選択するための自己分析、企業研究、職業適性の手法を学び、コミュニケーション能力を身につける。	A 外部専門講師による自己分析、企業研究、職業適性診断の講義演習。OBOGの講話。夏季休業中のインターンシップ参加を促す。 B 外部専門講師による企業情報収集のポイント、履歴書・エントリーシートの作成、面接対策など就職活動への実践的な学修を行う。

キャリア形成支援科目の新規開講

	H30年度	R元年度	R2年度以降
全学共通系 キャリア形成支援科目	(対象:1・2年) キャリアデザイン(後期) 【見直し検討】	(対象1・2年) キャリアデザインⅠ(前期) キャリアデザインⅡ(後期)	(対象1・2年) キャリアデザインⅠ(前期) キャリアデザインⅡ(後期)
	(対象:3年) キャリアサポートベーシック(通期) 【見直し検討】	—	(対象2・3年) キャリアサポートベーシックA(前期) キャリアサポートベーシックB(後期)
	国際交流演習Ⅰ～Ⅳ	国際交流演習Ⅰ～Ⅳ	国際交流演習Ⅰ～Ⅳ

③ 地元企業理解促進・キャリア形成支援の取組

学生の地元企業におけるインターンシップへの参加を促進するとともに、地元企業への就職の関心を高めるため、地元企業経営者パネル討論会(平成29年度から開始)や地元企業に就職したOB・OGの体験談を聞く会、地元企業等でのインターンシップ参加者による報告会、地元企業等に就職したOB・OGと在学生の交流会の開催、地元企業等に対する本学の教育研究活動等の成果の説明会を開催した。

このように、正課外の学修活動を含めて、地元企業理解の促進や学生一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育を推進している。

■地元企業経営者パネル討論会の開催 (H29年度～)

学生が地元企業をより深く知る機会を提供し、地元就職に対する意識を高めるとともに、企業のトップから、広島で働く意義や求める人材像について、直接考え方を聞くことによって、個人の個性や適性に合った職業を学生自ら選択できる能力の向上に資するため、地元企業の経営者をパネリストとして招聘して、パネル討論会を開催した。

■OB・OG体験談報告会

地元企業に就職した本学卒業生による就職活動や仕事のやりがいなどの体験談を在学生在が聞く会であり、国際学部・情報科学部・芸術学部から各1名ずつOB・OGが登壇し、地元就職の良さを語っている。

■インターンシップ報告会

国際学部と情報科学部において、インターンシップの参加者のうち単位の認定を希望する学生が、参加したインターンシップにおいて何を体験し、何を得たかを教員・学生の前で報告を行った。

■OB・OG交流会

3月1日の会社説明会の解禁直後に2日間開催。地元企業等に就職した本学卒業生と就職希望の学生とが会食を交えながら、就職に関して地元企業等と学生とのマッチングを行った。

■大学説明会

地元企業を中心とした参加企業に、学生による研究活動や社会活動、サークル活動の成果を紹介し、企業の求職活動に役立ててもらうことを目的としている。例年200社以上が参加し、教員も多数参加し、企業関係者と就職に関する情報交換も行っている。

地元企業経営者パネル討論会の実施状況

	H29年度	H30年度	R元年度
開催日	11月24日	11月20日	11月28日
「テーマ」	「企業が求める人材とは」	「企業が求める人材とは」	「企業トップが語る・求める人材とは」
パネリスト	オタフクフールディング(株) 常務取締役 (株)ドリーム・アーツ社長 (株)フィル・エ・クチャーレ社長 (株)やしま常務執行役員	(株)イワタ木工社長 (株)インターフェース社長 (株)モルテン社長 (69名)	(株)エムネス社長 (株)広島マツダ会長 CEO (株)ポップジャパン社長 (83名)
(参加者数)	(73名)		



OB・OG体験談報告会



大学説明会で研究成果を説明する学生

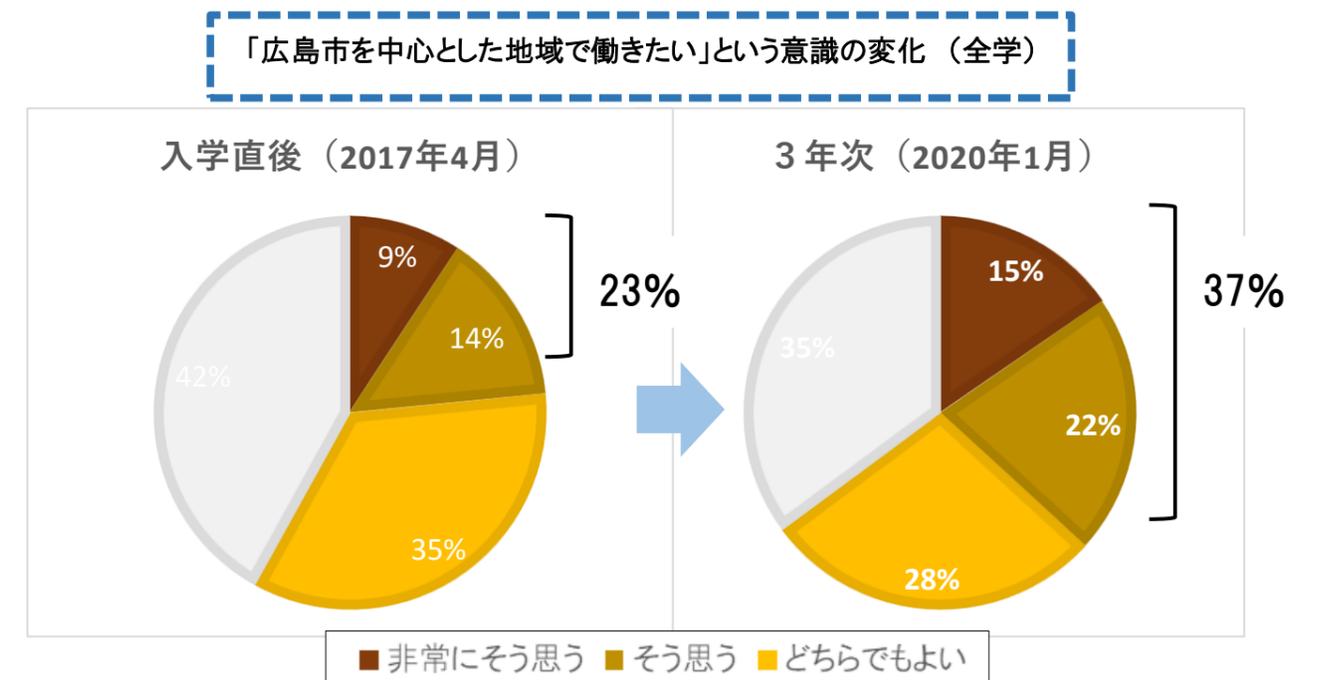
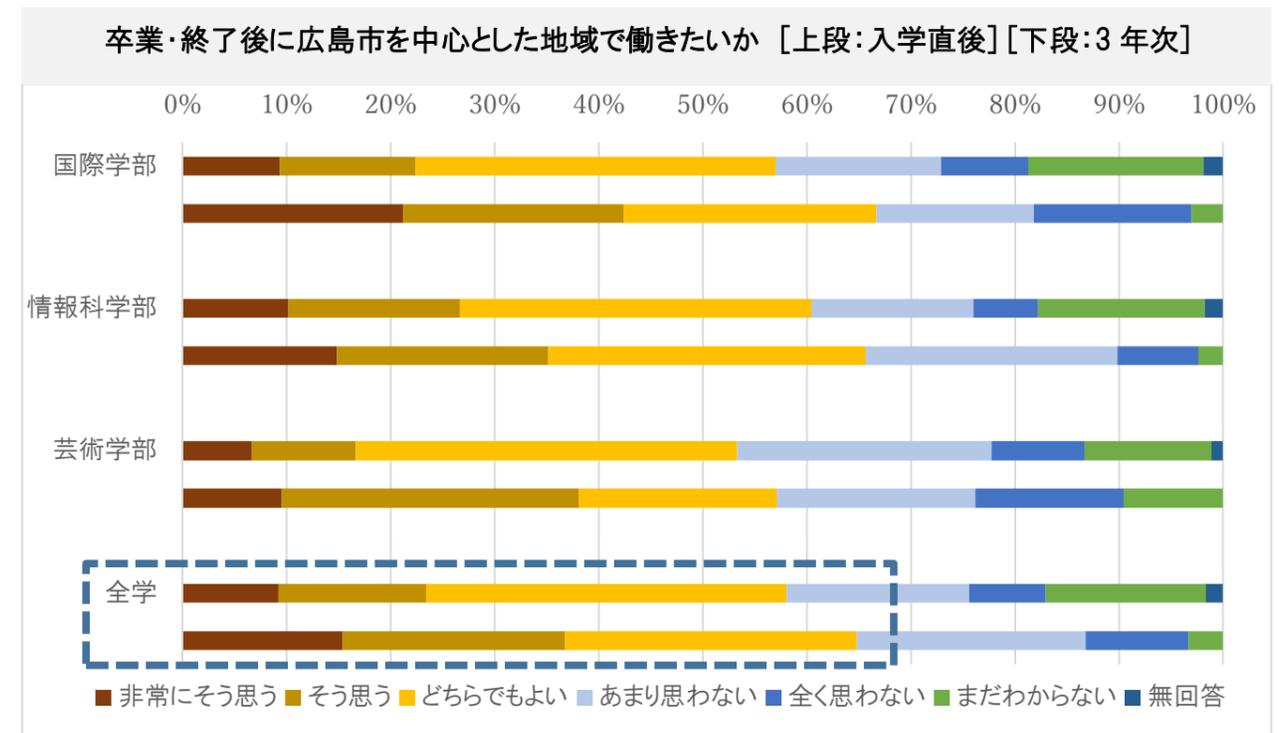
(2) 就職意向調査

学生の就職に関する意識調査を実施した。

COC+事業により進めてきた地域志向教育やインターンシップの促進等により、学生の意識がどのように変化したか、平成29年度(2017年度)入学生を対象に、入学直後と3年次の1月の2回アンケートを行った。

就職に関する意識調査						
対象	2017年度(H29年度)入学生					
調査時期	1回目	2017年4月(入学直後)				
	2回目	2020年1月(3年次)				
回答者数	1回目	国際学部 107人	情報科学部 225人	芸術学部 90人	合計 422人	
	2回目	国際学部 33人	情報科学部 128人	芸術学部 21人	合計 182人	
アンケートの設問	「出身地」「現時点で考えている学部卒業後の進路」「卒業・終了後、広島市を中心とした地域で働きたいか」「広島市を中心とした地域以外ではどこで働きたいか」					

集計の結果、設問のうち特に「卒業・終了後、広島市を中心とした地域で働きたいか」について見ると、「非常にそう思う」と「そう思う」の合計で、入学直後には23%であったものが、3年次では37%に上昇している。これは、広島地域への就職を明確に意識している学生の割合が増えたととらえることができる。これに「どちらでもよい」と答えた学生を加えた層の割合は大きく変わっていない(入学直後58%、3年次65%)が、3年間の地域学習等によってモラリアムの意識にあった学生において、本地域への意識付けと関心が醸成された表れといえる。



(3) COC+参加機関・参加校の取組

① COC+参加機関とのインターンシップ充実に向けた検討と実施

地元企業が実施するインターンシップの充実を促進するため、参加機関である中国経済連合会及びマツダ(株)が主体となって実施するインターンシップの検討会に本学も参加し、協議・検討を進め、新たな企業インターンシップを実施した。

■中国経済連合会(人材育成専門部会) 新たな企業訪問事業

人材育成部会における平成28年度の検討を踏まえ、29年度から、大学低学年の学生を対象に大学生の初期キャリア形成を支援する事業として、地域の企業と連携して「働く魅力を知る」企業訪問半日コースを実施した。

平成30年度からは、COC+参加校を含む県内大学の学生の一層の参加促進を図るため、中国経済連合会と本学COC+との協働事業として実施した。また、新たに学生を指導助言する側の教職員の地元企業への理解を促進するため、教職員向けの企業訪問半日コースも開設した。



(一社)中国経済連合会
(2018年度)

未来のキミをイメージしてみませんか

働く魅力を知る！

企業訪問半日コース

1~2年生 大歓迎

地元企業の経営幹部・社員にインタビュー

教職員向け「企業訪問半日コース」

開催のご案内

地元企業を訪問し、経営幹部・社員と懇談します

- 地域の企業の魅力とは？
- 地域で働く魅力とは？
- 企業が求める人材像とは？
- 若手社員が大学に求めることは？

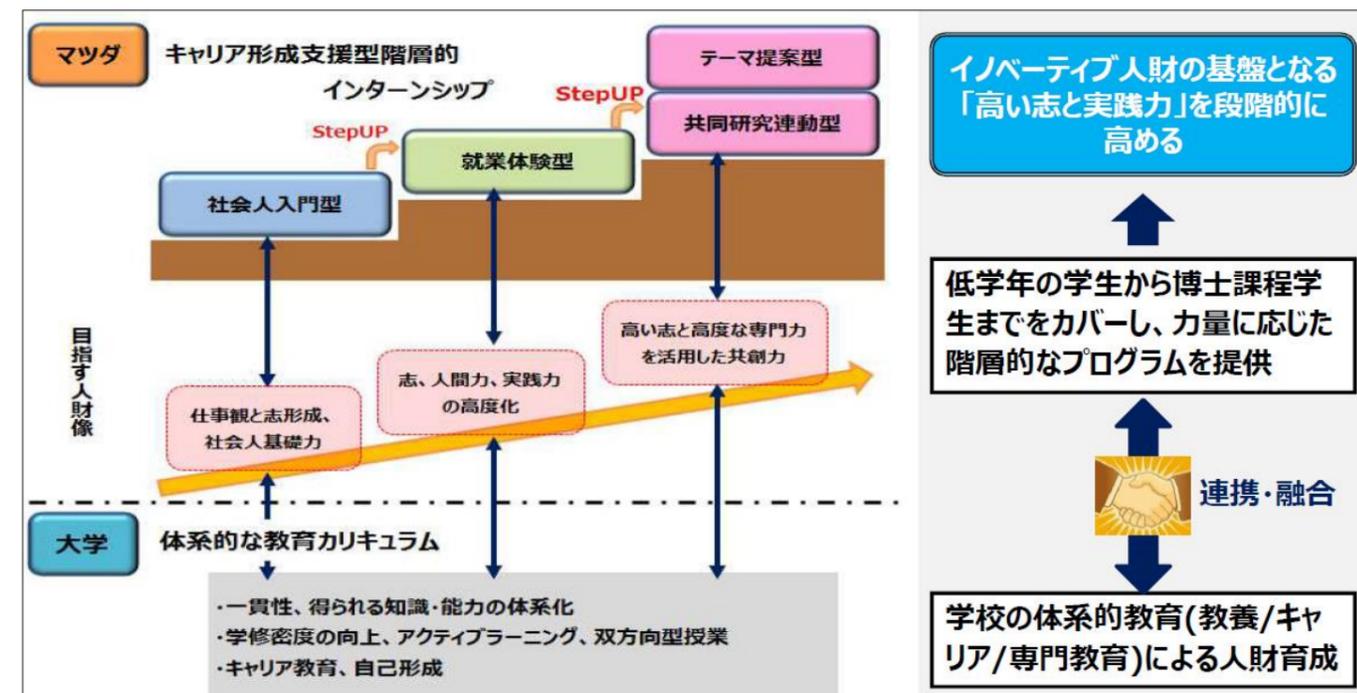


地域で働く人の想いと働く現場に触れ、大学と地域の関わりについて考えてみませんか

■マツダ株式会社 キャリア形成支援型階層的インターンシップ

マツダ(株)においては、イノベティブ人材育成の一環としてインターンシップの充実を図るとともに、各大学におけるキャリア教育の強化を目指し、地元の受け入れ対象大学等と定期的に合同意見交換会を開催している。(マツダ(株)の主催により、広島大学、県立広島大学、広島市立大学、広島工業大学、安田女子大学、呉工業高等専門学校が参加)

マツダ(株)のインターンシップは、「キャリア形成支援型インターンシップ」であり、低学年の学生から博士課程の学生までをカバーし、力量に応じた階層的なプログラムを提供している。合同意見交換会参加大学の学生が、社会人入門型、就業体験型、共同研究連動型、テーマ提案型のプログラムに沿って「高い志と実践力」を養った。



② COC+参加校における地元就職促進の取組

COC+参加校では、学生の地元就職を促進するため、地元企業との連携を強化し、学生の地元企業への関心を高め、地元企業と学生との接点を増やす事業に取り組んできた。
こうした事業は、次の4つに分類される。

- ア 地元企業のPRと企業の学生へのアプローチの場として、企業セミナー、業界セミナー、合同企業説明会を開催する等、地元企業との交流事業
- イ 企業の協力の下、地元企業に就職した卒業生OB・OGが学生に対して企業のPRと地元就職のメリット等を伝えるOBOGとの交流事業
- ウ 企業インターンシップの形態ではなく、学生が地元企業を訪問し、工場見学や従業員との交流等によって地元企業への理解を深める企業訪問
- エ 上記以外の、例えば、企業の従業員との交流等、地元企業の協力を得て学生の就職支援につながる事業

これらの事業活動によって、COC+校とCOC+参加校全体での、事業協働委機関へのインターンシップの参加者数は、1400人から1100人の幅で推移してきた。
設定した目標に対しては上下しながら、概ね一定の水準を維持してきたといえる。



合同企業説明会
広島大学



卒業生による就活セミナー
広島経済大学

参加校による地元就職促進事業

校名	実施内容
広島大学	●学内セミナー(インターンシップ合同企業説明会、合同業界説明会、業界セミナー、企業セミナー、学内合同企業説明会)●広島大学OB・OGによる業界研究セミナー●教養教育科目「キャリアデザイン講座-先輩プロフェッショナルが「あなたの未来」のために語る」の開講●企業見学バスツアー
尾道市立大学	●企業と大学との意見交換会●尾大卒社会人と現役生の交流会●「社会人と話そう」と題した双方向の業界セミナー
広島経済大学	●産官学連携による人材育成の観点からの地域密着型のインターンシップ●キャリア科目「キャリアスキルズⅠⅡ」●卒業生による就活セミナー●地元企業を中心に400社の企業訪問を目指す取組●Uターン就活講座●愛媛県・山口県・島根県と就職支援協定を締結し、Uターン・Iターン就職を促進●保護者対象の就職説明会
広島工業大学	●廿日市市内業界研究セミナー●OB・OGとの交流事業(業界研究・セミナー)●Uターン就職ガイダンス●職場見学●企業訪問
広島国際大学	●学内合同就職説明会●OB・OG交流会●OB・OG招聘就職ガイダンス●心理学部企業訪問
広島修道大学	●学内合同企業説明会●学校と企業の交流会(尾道市・福山市)●Uターンセミナー●企業見学バスツアー●卒業生サポーターによる業界・研究セミナー●企業開拓、挨拶訪問
安田女子大学	●学内合同就職説明会●OG懇談会●フィールドワーク(企業訪問・企業研究)●キャリアセンター職員による企業訪問
広島商船高等専門学校	●企業研究会●県内企業への訪問●工場見学●OBOGによる学校訪問●合同企業説明会への参加

COC+事業協働機関へのインターンシップ参加の実績

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度
事業協働機関への インターンシップ参加者数(全体) (目標数) 目標に対する増減	1400人 (1244人) +156人	1227人 (1258人) -31人	1286人 (1272人) +14人	1109人 (1286人) -177人	1166人 (1300人) -134人
うち広島市立大学参加者数 (目標数) 目標に対する増減	44人 (62人) -18人	50人 (64人) -14人	58人 (66人) -8人	59人 (68人) -9人	77人 (70人) +7人

※全体の参加者数が平成30年度に下がったのは、広島豪雨災害のボランティア活動に多くの学生が参加しており、影響を受けたためと思われる。令和元年度にそのマイナスを回復するには至らなかった。